

2歳児 I期（4月～5月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ・保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や草花に興味をもって、見たり触れたり集めたりなどする。 ・積木を並べたり、積んだりすることを楽しむ。 ・水、砂、泥など様々な素材に触れる。 ・「同じ」「大きいね」「黄色だね」など遊びの中で色や形、大きさなどに気付く。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で簡単な挨拶や返事をしたり、生活に必要な簡単な言葉を使ったりする。 ・保育者や友達の名前を覚えて呼んでみる。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かるようになる。 ・保育者に好きな絵本を読んでもらったり、知っている歌や手遊びを一緒にしたりする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かして遊ぶ。 ・積木やお手玉などを乗り物や食べ物に見立てて遊んだり、人形やままごと道具を使ったごっこ遊びをしたりする。
人とかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活の場や人に慣れ、好きな玩具や遊具で遊ぶ。 ・友達のしている遊びをまねて、同じことをしようとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びを楽しみながら、保育者の仲立ちで、近くにいる友達に関心をもつ。 ・保育者のそばで安心して過ごす。 ・保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。 ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をし、食事の区切りを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のロッカーや靴箱、自分の物の置き場所が分かる。 ・「待っててね」と言われ、少しの間、待とうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の手助けを受けながら、排せつ、着脱、昼寝などをしようとする。 ・自分の物と人の物との違いが分かる。 ・スプーンを使って一人で食べようとする。 ・同じテーブルの友達と一緒に食べることを喜ぶ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり、三輪車や滑り台などを使ったりして戸外で体を動かして遊ぶ。 ・全身を使った遊びを楽しむ。（体操、巧技台での遊びなど） ・近場への散歩を通して階段、でこぼこ道、坂道などを歩くことを楽しむ。 ・粘土、のり、クレヨン、ボタン、パズル、手遊びなど、指先を使った遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 新聞紙で遊ぼう

一人一人が安心感や開放感を味わい、楽しんで遊ぶ。

ここで遊びたいな

絵本、連結電車、ミニカー、ブロック、粘土、お絵描きなどから自分の好きな遊びを選び、一人で又は保育者とかかわりながらゆったりと遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・一人一人の気持ちを大切に受け止めながら丁寧に対応し、信頼関係を築いていく。
- ・食事、排せつ、睡眠など安心して生活できるように保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりを心掛ける。
- ・「きれいになったね」「靴が履けたね」など子供のしたことやしようとしていることを言葉に表して伝え、うれしさや満足感を味わえるようにする。そこから、自らやってみようとする意欲につなげていく。

<家庭との連携>

- ・新しい環境での子供の様子を細やかに知らせ、安心してもらうとともに、保護者との信頼関係を築いていく。
- ・保育室など生活環境が変わるため、子供は心身ともに疲れやすくなり、甘えが見られることもある。子供の様子を互いに伝え合うなど、連携を密に取るようにする。

環境の構成

- ◆ 思い切り新聞紙を破いたり、破いた新聞紙で様々に遊んだりできるように、広い空間を準備する。
- ◆ 指先を十分に動かして遊ぶことができるよう、柔らかく扱いやすい新聞紙の素材の特性を生かす。

子供の姿

保育者が新聞紙を持ち、破いたり、ちぎったりしたものを上に投げしてみるなど楽しく遊んで見せた後、一人一人に新聞紙（大きめの紙、1枚から始める）を渡す。

思い思いに手に取って、触ったり破いたりして歓声を上げる子供が多い。まだ保育所での生活に不安をみせている子供も、周りの保育者や友達の歓声を聞いたり新聞紙を自由に触る様子を見たりすることで刺激を受け、同じように触れて遊び始める。

保育者も加わり丸めた新聞紙を投げしてみると、子供たちも歓声を上げながら喜んで新聞紙を投げる。床に落ちた新聞紙の中で泳いだり、ガサガサと歩いて楽しんだりする。

後半は個々にビニール袋を持って新聞紙を拾い集め、それを保育者がボール状にする。投げる、手で突くなど全身を使った遊びをそれぞれが楽しむ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

▲ちぎる、引っ張る、破くなど、手や指先を十分に使って遊ぶ。

★●開放感を味わいながら自分の好きな遊び方で自由に遊ぶ。

★●保育者や友達の行動や言動をまねて、同じようにやってみようとする。



★▲新聞紙の上に寝転がったり、新聞紙の中を歩いたり楽しい遊び方を見付け、全身を使って楽しむ。

▲新聞紙のボールを使って投げる、拾う、追いかける、突くなど、全身を動かした遊びを楽しむ。

援助のポイント

◆ 子供の発想、気付き、発見、楽しさに共感する

一人一人の楽しみ方で十分に遊べるように、時間を保障する。自由に遊ぶ中で生まれた、泳ぐまねや新聞紙の音を楽しんで歩くなどのそれぞれの遊び方や、ちぎった新聞紙の形や大きさに気付いた子供の喜びなどを大切に受け止める。満足感を味わうことにより、更に楽しい気持ちで遊びに参加できるようにする。

◆ けがの防止など、安全面に留意する

場所を広くとることで全身を使った様々な動きがしやすく、開放感を味わうことができる。一方、夢中になり興奮してくると動きが激しくなり、ぶつかり合うことや丸めた新聞紙が当たることなども予想されるので、危険につながる行動は保育者から個々の子供や全体に知らせ、注意喚起する。

◆ 個々の参加する姿を把握し、受け止める

楽しく遊びに参加している子供に対しては、保育者も加わりながら楽しい、うれしいという気持ちを共感できるようにする。周囲の動きに圧倒されて遊び出せない子供に対しては、他の子供の遊んでいる様子を見ていることも参加の一つであると捉え、保育者が個別にかかわりながら、周りの子供の楽しそうな様子を伝え、一緒に新聞紙に触れてみるなど、楽しい雰囲気の中で無理なく過ごせるようにする。

2歳児 Ⅱ期（6月～8月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・砂、水（プール、水遊び）、泥などの感触を全身で味わいながら、思い切り遊ぶ。 ・友達に関心を持ち、同じ場で過ごしたりまねしたりすることを喜ぶ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な小動物や植物に興味を持ち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・水、砂、土、泥などに触れて感触を味わい、伸び伸びと遊ぶ。 ・嬉しかったことや困ったこと、印象に残ったことなどを話そうとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに興味を持ち、「これなあに」「どうして」と盛んに質問をする。 ・絵本や紙芝居の中の簡単な言葉を繰り返し言うことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土や小麦粉粘土を使い、ちぎる、伸ばす、丸めるなど、自由に楽しむ。 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・身近な物を見立てたり、好きなものになって遊んだりすることを楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のしていることに関心を持ち、同じ場で遊んだりまねたりすることを喜ぶ。 ・保育者を仲立ちとして友達とかかわって遊ぶ。 ・自分のしたいことや、してほしいことを言葉やしぐさで伝える。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達とのかかわりの中で、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者に対し、「～したよ」「～だから」など出来事を思い出して話すことを喜ぶ。 ・「自分で」と自己主張をし、何でも自分でしようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んだ後に、保育者と一緒に遊具を片付けようとする。 ・自分の物、人の物の区別がつく。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の誘いで、トイレで排せつしようとする。 ・保育者のそばで、安心して眠る。 ・スプーンやフォークを使って食べたり、友達と一緒に食事をするを楽しんだりする。 ・できないところは保育者に援助されながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く、走る、登る、降りるなどの行動や、段差のある場所での遊びを通して、十分に身体を動かして遊ぶ。 ・リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。

<指導例>

◇ 洗濯ごっこ

水の感触を味わい、生活経験を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。

ペタン、ペタン、楽しいな

空き容器やスポンジ、野菜などに絵の具を付けて、スタンプ（型押し）をする。型が写ることや、形の面白さ、色のきれいさを感じ、繰り返し楽しむ。

<援助のポイント>

- ・一人一人の不安、欲求、甘えなどを丁寧に受け止めて信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。
- ・一人一人がじっくりと遊べるような環境を準備し、その子なりの遊び方を一緒に楽しみ、認めていく。
- ・自分でやろうとする気持ちを受け止めながら、必要に応じて適切な手助けをしていく。
- ・基本的な生活習慣については、個々の実態に合わせてきめ細やかな援助をし、自分でできた喜びや満足感を持ち、気持ちよく過ごせるようにする。

<家庭との連携>

- ・子供が何でも自分でやりたがり、盛んに自己主張をするため、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期でもある。保護者会などで保護者同士が率直な思いを出して話せるようにしたり、この年齢の発達の道筋を伝えたりして、保護者の気持ちに寄り添い、一緒に子供の育ちを見守っていく。
- ・子供が自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらうように伝える。
- ・感染症（とびひ、結膜炎、溶連菌感染症など）について、家庭に知らせ、健康状態について連絡を密にする。

環境の構成

- ◆ ぬれることを気にせず十分楽しんで遊べるように、水着に着替えて遊ぶ。
- ◆ 子供たちが扱いやすい大きさの薄手のものを用意する。洗剤は使用せず、水のみで遊ぶ。
(自分のTシャツやままと用エプロン、ハンカチ、人形の洋服など)
- ◆ 一人一人がじっくりと楽しみ満足できるように、洗面器やバケツは各自に用意する。
- ◆ 一人一人が十分に楽しめるスペースを確保する。洗う場所、すぐに干せる場所、余裕をもって干せる空間、干しやすい高さに調節したひもなど、子供の動線を考慮した環境を整える。

子供の姿

一人一人に洗面器やバケツを渡す。水を張っておいたらいやビニールプールから、ひしゃくなどで自分の容器に水を入れる。

好きな場所で洗いたい物を“ゴシゴシ”と洗う。保育者が「ゴシゴシ洗うの上手だね」「気持ちがいいね」と言うと、「うん、冷たい」「気持ちいい」「ぼく、お父さん」などと応じながら、洗う。

洗い終わると、絞る、干す、洗濯ばさみで止めるという流れを自分のペースで進めていく。「先生、見てて」と保育者に見せ「自分で干せたね」と言われ、にっこりする。干し終わると「できた」と満足そうな表情が見られる。

「もう一回」と好きな物を繰り返し洗ったり、洗面器の中で洗濯物を手でぐるぐると回したりする。

保育者が「もう乾いたかな」と取り込むと、「やりたい」「入れて」と子供たちが集まる。保育者と一緒に取り込み、喜んでたたむ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★水やぬれた布の感触、冷たさ、気持ちよさを感じる。

★大人のつもりになって遊ぶことを楽しむ。

▲洗う、洗濯ばさみで留めるなどの動きを楽しみながら、指先を使って活動する。



★●自分のしたいことやしてほしいことを話し、保育者と言葉でのやり取りを楽しむ。

●友達の行動を見てまねをしたり、同じ動きをしたりするなど、友達に関心をもって遊ぶ。

●▲保育者と一緒に乾いた洗濯物を取り込み、たたんで楽しむ。

援助のポイント

- ◆ 一人一人が自分の遊びを十分に楽しめるようにする
水の感触、洗い方、干し方など一人一人のペースに合わせて感じていることを大事にする。「ゴシゴシ」「冷たいね」など、子供が感じていることや感触を簡単な言葉にして表し、言葉を使ったり、やり取りを楽しんだりすることを促していく。
- ◆ 自分から遊ぶ姿を大切に受け止める
自分の思ったように遊ぶ楽しさが、遊びや生活での意欲につながる。家庭で経験したことやなりきって遊んでいる様子から、自分から遊ぶ子供の姿を受け止め、保育者も一緒に遊びや会話を楽しむ。洗う、絞る、広げるなどは、きちんとできなくてもその気分を十分に楽しめるようにする。
- ◆ 「洗う」から「たたむ」までを一連の楽しい遊びにする
「たたむ」という経験も遊びの一つとして取り入れる。保育者が一緒にやりながら「やってみよう」「楽しい」という気持ちを引き出し、「最後までできた」「たくさん遊んだ」という満足感を味わえるようにしていく。

2歳児 Ⅲ期（9月～10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身近な大人の言葉や行動をまねたり、面白いと感じたことを繰り返して遊んだりする。 保育者や友達とのかかわりの中で、自分の思いや要求を伝えようとする。 戸外で身体を十分に動かして遊んだり散歩に行ったりする中で、伸び伸びと遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> 身近な用具の名前や使い方に興味をもち、保育者と一緒に使ってみる。 木の葉や木の実を喜んで集め、それを使って遊ぶことを楽しむ。 様々な容器や袋、布、ひも、箱などを使い、一人でじっくりと繰り返し遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかった経験を自分なりの言葉で伝えようとする。 気の合う友達とのおしゃべりを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> 好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作をまねて遊ぶことを楽しむ。 保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりして遊ぶ。 保育者と一緒に紙をのりで貼ったり、はさみで切ることを楽しんだりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ。 経験したことの中で同じようなイメージをもって、見立てて遊ぶことやごっこ遊びを保育者と一緒に楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> 友達との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、保育者を仲立ちとして、相手の思いを知る。 簡単な手伝いを喜んでする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 保育者の言葉掛けで危険なことに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 尿意、便意を知らせ、自分からトイレに行こうとする。 こぼしたり汚したりしないで食べられることを喜ぶ。 保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 自分の物の簡単な支度や始末をする。 手洗いや「ブクブクうがい」を保育者と一緒にする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊具や用具に触れながら、戸外で十分に身体を動かすことを楽しむ。 かけっこや追いかけて遊ぶことを楽しむ。 遊びを楽しむ中で、走る、両足ジャンプをする、一本橋を渡るなど、様々な身体を動かす。 低めの固定遊具、低めに調整した巧技台などですすんで身体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ かけっこをしよう

自分なりに思い切り走る楽しさを感じる。

どんぐりを使って遊ぼう

拾ってきたどんぐりを食材に見立ててままごと遊びに使う、ペットボトルに入れて作った手作りマラカスで遊ぶなど、自然物とかかわって遊ぶ。

<援助のポイント>

- 自分の気持ちや要求を自分なりに相手に伝えようとすることを大切にする。その際、具体的に言葉を知らせたり伝えたいことを仲介したりするなど、伝えようとする気持ちを支え、伝わったうれしさを感じられるようにする。
- 個々の発達の様子を把握し、それぞれの子供が楽しめる運動遊びを工夫していく。

<家庭との連携>

- 自我の芽生えや自分でやろうとする気持ちを受け止めて経験させることで、子供が変容してきていることを具体的に伝えて成長を確認し、保護者を支えていく。
- 運動会や遠足など、行事が多くなることを伝え、子供が動きやすい靴や着替えを用意してもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 伸び伸びと走れるよう、園庭やホールの広い場所を確保し、1回に走る人数は4～5人にする。
- ◆ スタートラインを引くとともに、立つ位置が分かりやすいように間隔を空けて○印を付ける。
- ◆ 待つ場所は、スタートラインの後方で横一列に並ぶ。保育者から一人一人の顔がよく見えることで、目線を合わせて声を掛けやすくする。
- ◆ 子供が安心して走り切れるように、ゴールには保育者が立つ。

子供の姿

保育者が「名前を呼びます」と言うと、子供たちは名前が呼ばれるのを期待しながら待っている。名前を呼ばれた子供は、「はい」と返事をする、ニコッと笑う、手を挙げるなどそれぞれに反応し、保育者と一緒にスタートのときに立つ位置に行く。「ヨーイ」の合図で子供たちは走り出すポーズをし、「ドン」の合図で走り出す。ゴールにいる保育者が「楽しいね」「かっこいいね」などと声を掛け、抱きとめてもらうことを喜ぶ。保育者と一緒に友達を応援したり、子供同士で顔を見合わせて笑いながら走ったりする姿も見られる。

走ることを何度も楽しむ中で、かけっこでは名前を呼ばれると自分の順番になることが分かったり、「ヨーイ」の後「ドン」の合図まで体を静止したりできるようになっていく。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★順番を待つ、名前を呼ばれて立つ、スタートの合図で走るなど、保育者の簡単な指示を聞いて行動する。

★スタートとゴールの目印、「ヨーイ」と「ドン」の合図により、動きの区切りを感じる。



●保育者に名前を呼ばれたり、抱きとめられたりすることを喜ぶ。

●保育者と一緒に応援したり、拍手をしたりするなど、友達に関心をもつ。

▲思い切り走ることの楽しさを感じる。

●友達と一緒に走ることを喜ぶ。

援助のポイント

◆ 楽しく走ることを大切にしながら、体の発達を促す

競争ではなく、その子供なりにたくさん走る楽しさを感じることを大切にする。子供が楽しさを感じて繰り返し走ることで、全身の協応動作や合図に合わせて体をコントロールするなど、この時期の発達に必要な経験を積み重ねられるようにする。

◆ 保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げていく

保育者とかかわるうれしさや安心感を基に、何度も走ったり、友達と一緒に活動する楽しさを感じられるようにする。名前を呼ぶ、抱きとめる、一緒に喜ぶなど、保育者とのつながりやスキンシップを十分に味わえるようにする。

2歳児 IV期（11月～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しんだり、自分の思いを自分なりの言葉で表そうとしたりする。 ・保育者や友達と一緒に、見立てたり、なりきったりして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・音、色、匂い、量などに気付き、興味をもつ。 ・保育者や友達に自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しのあるやり取りや面白い言い回しのある絵本や紙芝居を見ることを喜び、自分で言ったり好きな場面を再現したりして遊ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・音楽に合わせて身体を動かすことや自分なりの表現遊びを楽しむ。 ・簡単な楽器（カスタネット、鈴、タンバリンなど）に触れ、鳴らして遊ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しみながら、ごっこ遊びをする。 ・自分の要求を自分なりに相手に伝えようとする。 ・鬼ごっこやかくれんぼなどで友達と同じ役になって遊ぶことを喜ぶ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に褒めてもらうことを喜び、頑張ろうとする。 ・自他や善悪の区別が少しずつ分かるようになる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「入れて」「貸して」など、遊びや生活に必要なことが分かり、やってみる。 ・保育者の援助を受けながら、遊びの中で順番や交代をする。 ・保育者と一緒に簡単なルールのあるゲームや遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なものも少しずつ食べてみようとする。 ・フォークやスプーンを正しく持とうとし、食器に手を添えてこぼさずに食べようとする。 ・手や口など体が汚れたことに気付き、自分できれいにしようとする。 ・保育者と一緒に食前や排せつ後の手洗いをする。 ・保育者の援助を受けながら、「ブクブクうがい」や「ガラガラうがい」を場面に応じて行う。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意を感じて、自分からトイレに行こうとする。 ・トイレットペーパーの使い方など排せつ後の始末の仕方を知る。 ・保育者と一緒に脱いだ衣服をたたんだり、片付けたりしようとする。 ・登る、押す、引っ張るなど、全身を使う運動遊びをする。 ・ボールを蹴る、投げる、転がす、受けるなどして遊ぶ。

<指導例>

◇ がらがらどんごっこは楽しいな

保育者とのかかわりや言葉のやり取りの楽しさを味わう。

先生、赤ちゃんになって

保育者を赤ちゃん役（世話をする対象）にし、寝かしつけたり病院に連れて行ったりしながら、おうちの人役になりきって遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・部屋の換気や湿度設定をこまめに行う、手洗い、うがいを促すなど、風邪の予防に努める。
- ・前開きやかぶりの服の着脱やたたむことなど、子供と一緒に身の回りのことを行いながら、できたことを保育者も共に喜び、認めていく。
- ・友達とのかかわり方を伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲介役になっていく。

<家庭との連携>

- ・保護者の育児の悩みや子育ての参考になる情報を、クラスだよりなどを介して紙面上で交流し合い、安心して楽しく子育てができる環境づくりをしていく。
- ・子供がやりやすい衣服の裏表の返し方や、園での声の掛け方を具体的に知らせ、家庭でも行えるようにする。また、自分でできたという喜びが感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらうように伝えていく。

環境の構成

- ◆ ホールに巧技台で一本橋を設定する。子供が橋のイメージをもって動き、やり取りの面白さを感じられるようにするため、高さは10cm程度にする。
- ◆ 子供が話のイメージを想起できるように、「橋の下にトロルがいるかも知れないね」などと声を掛けながら一本橋を作る。

子供の姿

一本橋の横に保育者が立ち、渡ってくる子供に「トロルに食べられないように渡ってね」と声を掛けると、落ちないようにそっと歩いていく。バランスを崩して足を踏み外す子供もいるが「トロルにつかまる」と言って、急いで一本橋に戻り、もう一度渡る。渡り切ると「つかまらなかった」と喜んで保育者に伝える。

保育者と声を合わせ、「コッチンコッチン、カチカチトン」と言いながら橋を渡る子供がいる。渡っている他の子供も面白がり、同じように言う。

保育者がトロル役になり「誰だ。俺の橋を渡るのは」と言うと、「小さいヤギのガラガラドンだ」「草を食べに行くところだ」と絵本の中の言葉で、口々に答える。怖がったような顔、強そうな顔、笑顔など、好きな役になりきり、様々な表情やしぐさが見られる。

「今度はトロルがやりたい」と保育者と一緒の役になりたがる子供が出てくる。何人もの子供がトロル役になって橋の横に集まる。保育者の口調をまねて「誰だ。俺の橋を渡るのは」と言ったり、「大きいヤギのガラガラドンだ」と答えたりする。徐々に子供からの言葉が多くなり、友達と一緒に言うてみることを喜ぶ子供もいる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★絵本の中の言葉を言うことを喜ぶ。

★やりたい役でなりきった動きを楽しむ。

★お話のイメージの中で遊ぶことを喜ぶ。



●保育者や友達とのやり取りを面白いと感じる。

▲慎重に、横に歩いたり、足を交互に出して歩いたりする。

▲落ちないように体のバランスをとって歩く。

援助のポイント

- ◆ **言葉の面白さや繰り返しのやり取りが楽しい絵本に親しむ**
簡単なストーリーの中に楽しい言い回しや繰り返しのやり取りの面白さが入った絵本を用意し、日頃から親しんで興味をもてるようにする。
- ◆ **保育者も一緒に活動しながら、子供たちがやってみたいと思う気持ちを大切に**
一人一人がやりたい役になり、なりきって自由に動いたり言ったりする姿を大切にする。絵本の中の言葉を一人で言う、友達と声をそろえて言うなど、様々な楽しみ方を十分に受け止める。保育者も役になりきって言ったり動いたりすることでモデルとなり、やり取りを促していく。
- ◆ **遊びのイメージを大切にしながら、行動の調整をする**
夢中になると、橋の高さや周囲の様子などに気付かずに、危険なことも予想される。危険な行動を止めたり、順番に並ぶように促したりするときは、保育者は自分の役の言い回しを生かして伝えるなど、遊びのイメージを大切に援助を工夫する。

2歳児 V期（1月～3月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることや経験したことなどを、保育者と一緒に自分なりに好きなように表現する。 ・保育者や気の合う友達とかかわることを喜び、ごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でし、進級を楽しみにする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・年上の子供がやっていることに興味を示し、まねてやろうとする。 ・雪、氷、霜柱など冬の自然に接し、見たり触れたりして遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの形、大小、長短、数などに気付く。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの言葉や楽しいやり取りの出てるお話の面白さを感じ、喜んで聞く。 ・指先を使い、合わせ折りや好きな折り方をして楽しむ。 ・保育者と一緒に、のり、はさみ、絵の具、粘土などの材料や用具を使い、作って遊ぶことを楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達2～3人で、ごっこ遊びを楽しむ。 ・クラスの友達と一緒に、話を聞いたり手遊びや体操をしたりすることを楽しむ。 ・保育者や友達と、鬼ごっこや簡単なルールのあるゲームで遊ぶことを楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に話し掛けたり、自分の知っていることを伝えたりしてかかわることを喜ぶ。 ・保育者や友達に自分のしてほしいことを言葉で伝える。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことや大きくなったことを認められ、進級することに期待をもつ。 ・みんなの物に気付き、自分なりに、順番に使ったり分け合ったりするなど、貸し借りをしながら使おうとする。 ・生活の中できまりがあることを知り、簡単なきまりを守ろうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・食前、排せつ後の手洗いを自分でしようとする。 ・様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・フォークやスプーンを使い、こぼさないように食べようとする。 ・外から帰ったときや食後は、うがいをする。 ・尿意、便意を感じて自分からトイレに行き、排せつの後始末を自分でしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・手を拭く、鼻汁をかむなど身の回りのことを自分からしようとする。 ・自分で衣服を着脱し、たたむなど始末をしようとする。 ・冬の自然に触れながら戸外で遊ぶ。 ・散歩に出掛けることを喜び、身体を十分に動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 大きいクラスで遊んでみよう

大きくなった喜びを感じ、進級への期待をもつ。

鬼ごっこは楽しいな

簡単なルールの中で、保育者や友達と一緒に、追ったり追われたりすることや走ることを楽しむ。

<援助のポイント>

- ・気の合う友達が出てくるが一緒に遊ぶことばかりを優先せず、一人一人が思いや自分のやり方を十分に出しながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じられる場面を大切に作る。
- ・ルールのある遊びでは、ルールは分かっているが受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いがもてることを大事にする。
- ・身体を動かすことや遊具を使うことを好むようになり、力やスピードも付いてくる。安全には十分に気を付けながら様々な経験ができるようにする。
- ・身の回りのことを自分でできるようになった喜びに共感し、進級への期待につなげる。

<家庭との連携>

- ・日常の具体的な姿から一人一人の子供の成長を伝え、喜び合うことで、子供も保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。また、集団としての子供たちの成長や、子供同士のかかわり方など、3歳児での成長につながっていくことを伝える。
- ・進級に伴い、園と家庭の連絡方法や持ち物などが変わる場合にはあらかじめ説明をし、保護者も安心して移行できるようにする。

環境の構成

- ◆ 2歳児、3歳児それぞれに大事にしたい経験、訪ねる時間、準備しておく玩具など、保育者間で連携を密に図っておく。
- ◆ 一人一人の様子に応じた対応をきめ細やかにできるように、少人数で遊びに行く。

子供の姿

初めて見る玩具に興味をもち、「これで遊んでいい」と指で玩具を差しながら保育者に聞く。「〇〇組のお友達に聞いてみようか」と答え、玩具を持って一緒に3歳児のところへ行く。子供の状況に応じて、一緒に3歳児に声を掛けたり、保育者が代弁して気持ちを伝えたりする。自分から「貸して」と言う子供もいる。

3歳児の保育室の前で「お兄さん、お姉さんと一緒に遊んでもらいたいね」「楽しそうだね」と話していると、3歳児が「おいで」「一緒に遊ぼう」と招き入れてくれる。2歳児はうれしそうに入室する。

中には、新しい環境に戸惑って不安そうな表情の子供もいる。保育者と手をつなぎ、保育者の膝に乗って過ごすなど、そばにすることで少しずつ落ち着いてくる。安心すると自分から周囲を見回し、興味をもった絵本を保育者に読んでもらうなどして過ごす。

3歳児の遊びや会話に関心をもち、遊んでいる様子をじっと見ている。「やりたい」と年上の子と同じ遊びをしたがり保育者に伝えてくる。保育者と一緒に3歳児から遊び方を教えてもらったり、同じクラスの友達と玩具で遊んだりして、笑顔が多く見られるようになる。

保育者が「お兄さんやお姉さんと一緒に遊んで楽しかったね」と言うと「うん」「また来たい」という子供が多い。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★違う部屋の環境に興味をもつ。

★初めて見る玩具を「どうやって遊ぶのかな」と考えたり様々に使ったりしてみる。

★3歳児の遊びに興味をもち、じっと見たり、遊んでみたいと思ったりする。



●不安なことがあっても、保育者と一緒であることで安心して遊ぶ。

●3歳児の部屋に入ったり玩具で遊んだりしたことで、進級することを楽しみにする。

★●保育者に言葉や行動でやりたいことを伝える。

援助のポイント

◆ 2歳児、3歳児それぞれの進級する喜びにつなげる

それぞれに必要な経験ができるよう、準備しておく物や保育者のかかわり方を共通にしておく。一人一人の状況に応じながら、保育者が仲介し、無理なくかかわったり玩具に触ったりできるようにする。一緒に過ごせたことや楽しさを大いに認め、それぞれの進級の喜びにつなげる。

◆ 保育室の雰囲気慣れることを大切にする

部屋の雰囲気に戸惑い、入室を嫌がる子供には、その気持ちに添い、「今度、遊びに来ようか」「遊びたくなったらいつでも一緒に来てみようね」など、子供に合ったペースで無理なく経験できるようにしていく。2歳児にとって「3歳児になること」は幼児クラスになる大きな節目である。その喜びと不安を受け止め、生活に意欲的になるように機会をつくっていく。